

400年の伝統 大溝祭

分部光信が大溝へ

高島市勝野には、かつて大溝藩とよばれる二万石の藩が存在していました。この大溝藩の起源は、元和5年（1619年）8月に、伊勢国上野（現在の三重県津市）城主であった分部光信が、新しい領地として近江国大溝に入ったことに始まります。初代藩主の光信は、織田信澄（信長の甥）が築いた大溝城三の丸跡あたり（現在の



分部神社）に陣屋とよばれる館を構え、大溝城下の町並み整備を進めました。

湖西地域唯一の曳山祭り

この分部氏の城下町である大溝には、その当時の華麗な祭礼文化を今に伝える大溝祭が5月に開催されます。大溝祭は、勝野に所在する日吉神社で行われる湖西地域唯一の曳山祭り、滋賀県選択無形民俗文化財となっています。その起源は、光信が大溝藩を治めた際に、始めたと伝えられています。

現在祭礼は、5月3日に宵宮祭、4日に本祭が行われ、勝野の5地区から、5基の曳山（湊・巴・宝・勇・龍）が出されます。曳山は、金箔や漆塗りが施され、それぞれに豪

華な天幕と胴幕、見送り幕などで飾られます。趣向を凝らした各曳山は、古式にのっとりて笛、太鼓・鉦の囃子で巡行します。3日の宵宮祭では、各曳山は提灯の点火で華麗に彩られながら夕暮れ時を巡行します。翌日、4日の本祭では、各町内から総門（旧大溝陣屋正門）前に曳山が勢揃いし、賑やかに囃立てながら日吉神社の馬場へと向かいます。神社では神霊遷しの儀式などの後、露払いを先頭に、剣鉦、傘鉦、太鼓、神輿、そして曳山の順で御旅所や各町内への渡御が行われます。

400年の伝統を未来へ

2019年には、初代藩主の分部光信が大溝に入って400年を迎えるなど伝統を誇る大溝祭ですが、近年ではボランティアでも参加できる曳山の引き手を受け入れるなど、伝統文化の継続と地域の活性化を目指した新たな取り組みが進められています。皆さんも、



湖西随一の曳山祭りである大溝祭に訪れてみてはいかがでしょうか。

閩文化財課 ☎ (32) 4467

編集感

新しい生活にも少しずつ慣れてこられましたか？多くの方が、新しい環境で新年度をスタートされたかと思ひます。私も4月から広報に携わることになりました。聞き手から発信する側になると知った時は期待と不安が混ざりあって、落ち着きのない毎日でしたが最近はずつとやりがいを感じられるようになってきました。みなさんに楽しみにしていただける広報を届けられるよう、頑張っていきますので、よろしくお願ひいたします！（A）



広報たかしま

平成30年

5

月号 No.220

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

〒250-0150 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎ 0740(25) 8000②

http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp